

Aグループ

廣瀬順子 (今江小)

湯田他恵子 (犬丸小)

竹島清美 (芦城小)

北出真由美 (符津小)

国本鮎子 (国府小)

宮浦三奈子 (栗津小)

大音順子 (波佐谷小)

下坂実菜代 (木場小)

「子どもの自立 ／親の自立」

平成25年度 小松市立学校PTA連合会
母親委員会 Aグループ

テーマ選定の理由

グループ研修に先だって開催された坂本和哉先生の講演会「今、子どもに求められる力」では、今からの時代は、変化が速く、昔のように、決められたレールはなく、大人の経験の教えより、自分たちで考えて行動することが必要であると強く感じました。

確かに、私達の職場や周りで「見た目だけの大人」や自分本意の人がいるといった現実があります。私達の子どもがそうならないためにはどうしたらよいのでしょうか？

そのためには、「子どもの自立が大切ではないか」
子どもの育ちに応じて、私達母親がどう接していけばよいか、
みんなで経験談やそれぞれの意見を出し合い考えてみました。

「子育て四訓」って何？

子どもの自立する方法を考えた時にある名言が見つかりました。

子どもの成長とともに、親と子の間に少しずつ距離ができ、やがて子どもは自立し、親から離れていくものです。その成長ごとの距離の取り方が「子育て四訓」です。

乳児は しっかり 肌を離すな
(0～3才)

幼児は 肌を離せ 手を離すな
(4～6才)

少年は 手を離せ 目を離すな
(7～12才)

青年は 目を離せ 心を離すな
(前期13才、後期18才)



私達の子ども(少年期)の私達が考えた「子育て四訓」を事例で示すことにしました。

少年期(7～12才)の子育てとは

- 少年は 手を離せ 目を離すな -

学校の忘れ物をしたら...あなたならどうします？

親の気持ちとしては、子どもが困っているだろうと届けてあげようと思うでしょう。当然ですよ！

子どもは、親が届けることを続けていると、忘れても届けてくれるからと、忘れ物をすることが悪いと感じなくなります。

子どもは、親が届けることをしないと、忘れると困ることを覚え、次からは忘れ物をしないように準備するようになります。

やはり、忘れ物は極力持っていくことを、思い留まりましょう。これが「手を離せ」です。

しかし、忘れ物をすることをそのままにして、注意しないと、これもまた、忘れ物をすることが悪いと感じなくなります。

忘れ物をした時、常に注意をすると、今度は忘れないようにしようと考えようようになります。

ここは、持っていく物を確認したか、声をかけてください。これが、「目を離すな」です。

ご家庭でもいろんな事例で次のように考えてみてはどうでしょうか？

子どもの時期はどこか→どこまでやらせるか どこでフォローするか→その結果、子どもはどう育つのか？

少年期は友達の付き合いが重要となり、社会性が育つ時期です
思い切って手を離して、活動範囲(自分で考えて行動する)を広げてください。
ただ、間違った方向にいかないようにしっかり見届けてください。

まとめ

・子どもには、成長に応じた課題を与えて、成長に応じた自立を進めましょう!

そのためには、母親は、子どもが今どの辺りの時期かを意識して接し方を変える・状況によっては我慢する必要があります。

・子どもが自立した時、「〇〇ちゃんのお母さん」から「◎◎さん」と立場を変えて生活ができるように準備しておきましょう!

趣味でも友達でもなんでもいいんです。子育てだけに目を向けるのではなく、日頃から視野を広げるように心がけましょう!

研修を終えて

今回、同じ母親代表の立場ではありましたが、家族構成などはさまざまな人の集まりでした。

いろいろな立場での経験談・意見が出て、有意義な意見交換ができたと思います。

今までの子育てを振り返る・今後の子育てをどうすべきか・親自身もどう過ごしていけばよいかを考えるよい機会になりました。

また、一人で子育てを考えるのではなく、みなさんも近くのお母さん達と一緒に考えてみてはどうでしょうか?

どの子ども将来の日本を任せる大切な人材なのですから...